

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年 4月1日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400342
法人名	有限会社 ドリームサトウ
事業所名	グループホームもみじの里
所在地	群馬県富岡市妙義町高田660番地の1 (電 話) 0274-70-0222

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年2月17日

【情報提供票より】(22年 1月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	6.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建て,	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費他300円/日
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(1 月 28 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富岡総合病院 七日市病院 富岡成清医院 黒澤クリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者を中心にそれぞれのペースでゆったりと笑顔で過ごしてもらえるよう、家族の意向も受け止めながら職員がアットホームな関係を築いているホームである。食事面でも地域の新鮮な野菜を豊富に使い、柔らかく食べやすい食事を提供できるよう工夫している。運営推進会議では、ホームの行事をはじめ様々なことがオープンに話し合われ、地域からの参加者の声も運営に活かされている。特に緊急連絡網が確立しているため、訓練時から協力が得られ、相互に安心できる状況になっている。また、ホームを会場とした地域活動も計画されており、地域住民に理解されている関係がうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価は職員会議や運営推進会議でも取り上げ、改善に向け検討した。①自己評価は意見を出し合う機会を設けたうえで管理者がまとめ、会議で確認した。②重要事項説明書に行政等の相談窓口を記載するようにした。③外部研修には交代で参加するようにした。④鍵をかけないケアの実践では玄関の出入りを自由にした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員には自己評価票を基に意見を聴く機会を設けたが、なかなか積極的な意見が出ない状況である。管理者がまとめたものを会議で確認した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2カ月に1度開催している運営推進会議には、行政職員や地域代表者、家族も複数参加して行事をはじめ様々なことがオープンに話し合われている。地域とのかかわりが自然に根付くおおもとは、運営推進会議での意見交換がある。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会が多いため、その都度日常の様子や健康状態を報告しており、家族から気軽に意見を出してもらえるよう雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との自然な連携ができています。日常的なあいさつや地域行事への参加の他、近隣のデイサービスセンターや小・中学生との交流に加え、ホームを会場にシルク体操の講習も計画されている。管理者の働きかけで地域の緊急連絡網にも組み込まれ、訓練時から協力してもらい相互の理解がしあえる関係ができています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成19年に職員で話し合っ、現在の理念『利用者職員が共に笑顔で過ごし、地域の方々が自然と足を運ぶような温かみのある施設を目指します』を作り上げた。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、利用者や家族・地域の人々にもわかるよう玄関に掲示している。また、職員は申し送りの際に読み上げ確認しあうようにしている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	玄関のソファや庭でくつろいでいると、近所に人が行きかう姿が見かけられ、手を振ってあいさつを交わしている。日頃から地域のお祭りや近隣のデイサービスセンターに出かけ交流している。また、ホームを地域行事の会場として利用者と一緒に楽しめる計画もあり、地域と自然にかかわれる付き合いを実践している。	<input checked="" type="checkbox"/>	
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の意見を出してもらうよう働き掛けているが、積極的な意見には至っておらず、管理者がまとめたものを会議で確認しあった。外部評価の結果は、職員会議や運営推進会議で報告し、改善に向けて検討した。	<input type="checkbox"/>	職員それぞれが自己評価を行うことは、業務の見直しや気づきにつながるため、職員が意見を出しやすい分担制や討議形式を取り入れてみてはどうか。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開かれる運営推進会議には、行政職員や地域住民の他、複数の家族が出席している。年間行事予定や外部評価の結果・ホームの活動全般について自由な意見交換を行い、ホームのサービス提供に生かしている。	<input checked="" type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外でも必要に応じて行政へ出向いている。年に3回地域のグループホームが市に集まる機会があり、資料をもらったり意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は月に複数回面会に来初しており、その都度報告をしている。急な場合は電話でも連絡をしている。運営推進会議やホームの行事も毎回通知を出している。	○	家族への通知はその都度出されているが、ホーム便りなどで定期的に行事や会議の予定・報告、ホームでの利用者の様子(全体、個人)などを、お知らせしてみてもどうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは気軽に意見を出してもらえよう関係作りに努めている。また、苦情や相談の窓口も通知や掲示で知らせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動した時は、家族の来所時に紹介している。利用へのダメージを防ぐため、新しい職員が慣れるまで職員間で教えあいカバーしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の会議で、テーマを設け資料をもとに勉強会を行っている。また、外部研修に参加した場合、報告書を作成し職員に説明する時間を設けることを検討している。	○	職員の外部研修への参加意欲も高く、交代での参加の機会を今後も増やせることが望ましい。また、研修の成果を全体に広めるために報告書の形式や方法等の具体化をさらに期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック単位で行っている交換研修に参加し、情報交換や参考になる取り組みを取り入れたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が納得したうえで利用できるよう、見学や体験入居(空きがある場合)をしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔から親しんでいた編み物や和裁のことや料理や季節の行事のことを教えてもらいながら、職員も一緒に楽しんで生活をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を通して、それぞれが好みことややりたいことを受け止めるようにしている。家族からもいろいろな情報をもらうようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネが中心になって、本人家族の意見や職員の意見を聞きながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は変化があった時は随時、定期的には6か月ごとに見直しをしている。3か月ごとには家族の意向も確認しながらモニタリングを行っている。	○	介護計画に基づいたサービスが提供できるよう、モニタリングは1か月ごとに行い、また計画の見直しは現状よりも短縮してみてはどうか。職員が提供するサービスが常に計画に沿った内容であることを意識できるよう、アセスメント・計画・モニタリングをいつでも確認できるような工夫も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の受診支援を始め、個々の要求に合った対応を心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談しながら、希望の主治医を受診してもらうようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のありかたについて、家族の意見を確認しながら、関係者で話し合っ対応しているが、方針を文書化するまでには至っておらず、現在検討中である。	○	ホームとしての考え方や取り組み方針について明文化するために、資料の収集等現在検討中とのこと。関係者全員が共有できる方針を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	秘守義務を重視し、個人情報を事務所で管理し、入居者の思いや尊厳に配慮した対応や声かけに心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のペースもそれぞれに合わせてゆっくと支援するようにしている。また散歩やレクリエーションも希望に沿って対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲を刺激するよう季節の新鮮な野菜や食材を豊富に使用して柔らかく食べやすい食事が提供されている。入居者もできる範囲で一緒に準備をして、楽しく食事をとり後片付けも一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則は月曜日と木曜日を入浴としているが、希望や状況に応じて毎日でも対応できるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブル拭きや掃除など利用者自ら仕事をしたいという意欲もあり、いつでもお願いしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとに花見やドライブに出かけたり、広々とした庭では季節ごとに木々や草花・野菜が楽しめ、散歩や日光浴ができる。近所のデイサービスセンターや公民館にも気軽に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者が鍵をかけないケアの実践を呼び掛け、日中の玄関の出入りは自由になっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の緊急連絡網を利用できるようになっている。年に2回の夜間を想定した火災・通報・避難・消火訓練には消防署や地域の消防団に協力してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食べやすい食事を栄養士が中心になって提供しており、毎食摂取状況をチェックしている。水分摂取量は1日1000ccを目安にしているが、注意が必要な人以外は記録していない。	○	水分摂取状況も体調の変化に関係することが大きいいため、全員の摂取状況をチェックするよう取り組んでいただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井から差し込む自然な光がこちよく、効率的な造りの館内はのんびりゆっくりした環境の中で過ごせるようになっている。玄関からは通りを歩く近所の住民の様子がかがえ、庭に出れば季節の移り変わりが実感できる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが思い思いの家具や写真などを持ちこみ、安心して過ごせるよう工夫している。		